

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月5日
【四半期会計期間】	第66期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社遠藤製作所
【英訳名】	ENDO MANUFACTURING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長谷川 実
【本店の所在の場所】	新潟県燕市東太田987番地
【電話番号】	0256（63）6111
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部門担当兼経営企画部長 佐藤 俊明
【最寄りの連絡場所】	新潟県燕市東太田987番地
【電話番号】	0256（63）6111
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部門担当兼経営企画部長 佐藤 俊明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

1. 訂正の経緯

当社の連結子会社であるENDO STAINLESS STEEL(THAILAND)CO.,LTD.(以下「ESST社」という)において、平成21年4月からESST社の現地責任者であった元取締役による同社の会社資金横領の疑念が生じました。そのため、現地調査を実施したところ、平成21年から不正行為発覚までの7年間、虚偽・架空の経費計上により、自身の旅費交通費や飲食代等を不当に請求し、会社資金を私的に流用した不正行為が判明いたしました。

当社は平成27年12月15日、調査委員会を設置し、現地調査を実施する等、被害金額を含む不正行為の真相解明、原因の究明、再発防止策等を検討し、平成28年1月29日、調査委員会より調査結果を記載した調査報告書を受領いたしました。

調査報告書の指摘を受け、過去に提出いたしました有価証券報告書等に記載されている四半期連結財務諸表に含まれる不適切な会計処理を訂正し、有価証券報告書等の訂正報告書を提出するものであります。

2. 会計処理

四半期連結財務諸表において、元取締役による旅費交通費等の横領額を発生した時期ごとに長期未収入金に振り替え、貸倒引当金繰入額(営業外費用)として全額貸倒引当金を計上いたします。

これらの決算訂正により、当社が平成27年11月13日付で提出いたしました第66期第2四半期(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)に係る四半期報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トマツにより四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

第4 経理の状況

2. 監査証明について

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

(四半期連結損益計算書関係)

(セグメント情報等)

セグメント情報

3【訂正箇所】

訂正箇所は____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第2四半期 連結累計期間	第66期 第2四半期 連結累計期間	第65期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (千円)	6,613,540	6,861,563	13,815,766
経常利益又は経常損失 () (千円)	25,483	479,534	390,531
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	422,275	46,058	301,928
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	649,592	91,991	1,029,988
純資産額 (千円)	12,702,482	14,235,720	14,391,494
総資産額 (千円)	18,770,525	18,939,812	19,673,984
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額 (円)	48.37	5.28	34.58
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	67.7	75.2	73.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	289,622	832,648	1,011,052
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	184,460	187,617	559,410
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	188,134	513,156	294,984
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	4,481,031	5,018,547	4,944,893

回次	第65期 第2四半期 連結会計期間	第66期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純損失金額 (円)	43.30	2.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間により、「四半期純利益又は四半期(当期)純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失」としております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第65期第2四半期連結累計期間及び第65期は、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第66期第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 専用信託口が所有する当社株式は、1株当たり情報の算定上、控除する自己株式に含めておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境が改善傾向にあり、景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、アジア新興国をはじめとする海外経済の減速、円安の影響による輸入原材料価格の上昇等の不安要因があり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、生産効率の向上、競争力のある高付加価値製品の供給に努め、新規取引先の受注拡大等を図るとともに、ゴルフ事業で構造改革を推し進めるべく、海外子会社の工場合理化に踏み切る等、一層の効率化・コスト低減等、収益の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は68億61百万円（前年同期比3.8%増）となりました。利益面につきましては、ゴルフ事業でコスト削減が進んだことやステンレス事業で増収・生産効率が向上したこと等から、営業利益4億76百万円（前年同期は20百万円の営業利益）、経常利益4億79百万円（前年同期は25百万円の経常損失）となりました。また、本社において遊休資産の減損損失を特別損失に計上したこと等で、親会社株主に帰属する四半期純利益46百万円（前年同期は4億22百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

ゴルフ事業

ゴルフ事業につきましては、本社及びタイ工場のコスト削減に努めるとともに、固定費の圧縮を行ったこと等で、売上高22億96百万円（前年同期比8.9%減）、営業損失1億9百万円（前年同期は4億9百万円の営業損失）となりました。

ステンレス事業

ステンレス事業につきましては、新たな取引先との受注の増加、製造工程の効率化等を図り、売上高8億87百万円（前年同期比20.3%増）、営業利益3億50百万円（同40.1%増）となりました。

鍛造事業

鍛造事業につきましては、生産効率の向上、コスト削減等に努めましたが、売上高36億77百万円（同9.6%増）、営業利益3億96百万円（同0.2%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、8億32百万円（前年同期比187.5%増）の収入となりました。これは主に、減価償却費5億25百万円、売上債権の減少2億32百万円、税金等調整前四半期純利益2億14百万円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億87百万円（同1.7%増）の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3億円等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、5億13百万円（前年同期は1億88百万円の収入）の支出となりました。これは主に長期借入金の返済による支出2億7百万円、リース債務の返済による支出2億6百万円等によるものであります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は50億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ73百万円増加いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億34百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

連結会社の状況

当第2四半期連結累計期間において、従業員数が前連結会計年度末に比べ341名減少しておりますが、その主な理由は、ゴルフ事業で受注数の減少に伴うタイ工場の生産性向上等による人員の減少であります。

提出会社の状況

当第2四半期累計期間において、従業員数が前事業年度末に比べ51名減少しておりますが、その主な理由は、ゴルフ事業で事業規模に応じた適正な人員を再度見直した結果、希望退職者を募集したことによるものであります。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績について著しい変更はありません。

(7) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,800,000
計	29,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,441,800	9,441,800	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	9,441,800	9,441,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	9,441,800	-	1,241,788	-	1,183,788

(6)【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社遠藤栄松ファンデーション	新潟県燕市東太田1845	1,942	20.6
遠藤 栄松	新潟県燕市	600	6.4
株式会社第四銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	新潟県新潟市中央区東堀前通7番町1071番地1 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	400	4.2
内藤 征吾	東京都千代田区	397	4.2
遠藤 栄之助	新潟県新潟市	380	4.0
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウ ント ピーアールデイ アイエスジー エフィー - エイシー (常任代理人 三菱東京UFJ銀行株式会 社)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	374	4.0
ビーエヌワイエム エスエーエヌブイ ビーエヌワイエム クライアント アカウ ント エムピーシーエス ジャパン (常任代理人 三菱東京UFJ銀行株式会 社)	RUE MONTOYER 46 1000 BRU SSELS BELGIUM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	361	3.8
ドイツェ バンク アーゲー ロンド ン ピービー ノントリティー クライ アント 613 (常任代理人 ドイツ証券株式会社)	TAUNUSANLAGE 12,D-60325 FRANKFURT AM MAIN,FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY (東京都千代田区永田町2丁目11番1号山 王パークタワー)	276	2.9
ブリヂストンスポーツ株式会社	東京都港区浜松町2丁目4-1	200	2.1
ザ バンク オブ ニューヨーク ノ ン トリーティー ジャスデック アカウ ント (常任代理人 三菱東京UFJ銀行株式会 社)	GLOBAL CUSTODY, 32ND FLOOR ONE WALL STREET, NEWYORK NY 10286, U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	173	1.8
計	-	5,105	54.1

(注) 上記のほか自己株式が711千株あります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 711,800	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,728,900	87,289	同上
単元未満株式	普通株式 1,100	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	9,441,800	-	-
総株主の議決権	-	87,289	-

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社遠藤製作所	新潟県燕市東太田987番地	711,800	-	711,800	7.5
計	-	711,800	-	711,800	7.5

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,834,671	5,781,313
受取手形及び売掛金	2,761,203	2,505,194
商品及び製品	781,442	761,872
仕掛品	462,100	563,232
原材料及び貯蔵品	679,256	692,013
繰延税金資産	11,298	15,530
その他	209,416	144,176
貸倒引当金	11,416	15,230
流動資産合計	10,727,972	10,448,103
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,007,858	2,876,650
機械装置及び運搬具(純額)	2,963,105	2,749,355
工具、器具及び備品(純額)	97,286	92,317
土地	1,798,619	1,635,208
建設仮勘定	100,211	105,466
有形固定資産合計	7,967,080	7,458,999
無形固定資産	25,820	35,460
投資その他の資産		
投資有価証券	100,569	130,466
投資不動産(純額)	434,139	431,169
退職給付に係る資産	378,902	398,722
長期未収入金	182,446	209,671
その他	45,714	42,992
貸倒引当金	188,660	215,772
投資その他の資産合計	953,111	997,248
固定資産合計	8,946,012	8,491,708
資産合計	19,673,984	18,939,812

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,099,117	911,269
短期借入金	1,296,350	750,320
1年内償還予定の社債	-	600,000
リース債務	291,224	86,807
未払法人税等	136,124	178,429
未払金及び未払費用	471,968	357,106
賞与引当金	53,198	244,261
債務保証損失引当金	24,040	-
その他	104,422	90,996
流動負債合計	3,476,446	3,219,191
固定負債		
社債	1,100,000	500,000
長期借入金	137,500	438,980
リース債務	14,145	10,097
繰延税金負債	195,302	189,713
退職給付に係る負債	228,532	221,509
役員退職慰労引当金	63,940	57,237
資産除去債務	60,128	60,583
その他	6,494	6,778
固定負債合計	1,806,044	1,484,900
負債合計	5,282,490	4,704,091
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,241,788	1,241,788
資本剰余金	1,189,873	1,189,873
利益剰余金	10,225,529	10,201,747
自己株式	287,993	281,935
株主資本合計	12,369,198	12,351,474
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,446	25,748
為替換算調整勘定	1,971,303	1,829,059
退職給付に係る調整累計額	45,545	29,437
その他の包括利益累計額合計	2,022,295	1,884,245
純資産合計	14,391,494	14,235,720
負債純資産合計	19,673,984	18,939,812

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	6,613,540	6,861,563
売上原価	5,596,772	5,577,133
売上総利益	1,016,768	1,284,430
販売費及び一般管理費	1,996,142	1,807,567
営業利益	20,625	476,862
営業外収益		
受取利息	13,214	17,762
受取配当金	1,120	1,038
投資不動産賃貸料	9,637	17,908
為替差益	4,563	31,599
その他	20,120	11,481
営業外収益合計	48,655	79,790
営業外費用		
支払利息	33,026	23,747
減価償却費	8,211	5,665
シンジケートローン手数料	11,649	11,374
貸倒引当金繰入額	4,23,304	4,27,224
その他	18,573	9,108
営業外費用合計	94,765	77,119
経常利益又は経常損失()	25,483	479,534
特別損失		
減損損失	-	2,186,786
事業再編損	3,248,904	3,78,148
特別損失合計	248,904	264,935
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	274,388	214,598
法人税、住民税及び事業税	121,784	177,365
法人税等調整額	26,103	8,825
法人税等合計	147,887	168,540
四半期純利益又は四半期純損失()	422,275	46,058
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	422,275	46,058

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	422,275	46,058
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,782	20,302
為替換算調整勘定	216,815	142,243
退職給付に係る調整額	12,284	16,108
その他の包括利益合計	227,316	138,049
四半期包括利益	649,592	91,991
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	649,592	91,991
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	274,388	214,598
減価償却費	430,334	525,921
減損損失	-	186,786
貸倒引当金の増減額(は減少)	27,549	30,925
賞与引当金の増減額(は減少)	187,208	191,063
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	6,526	3,850
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	860	6,703
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	25,048	24,040
受取利息及び受取配当金	14,334	18,800
支払利息	33,026	23,747
為替差損益(は益)	10,714	43,448
事業再編損	248,904	78,148
売上債権の増減額(は増加)	703,638	232,554
たな卸資産の増減額(は増加)	195,956	116,312
仕入債務の増減額(は減少)	258,245	228,033
未収消費税等の増減額(は増加)	18,291	13,313
長期未収入金の増減額(は増加)	23,304	27,224
その他	36,539	14,993
小計	388,741	1,130,535
利息及び配当金の受取額	14,265	18,836
利息の支払額	32,831	25,080
事業再編による支出	-	160,612
法人税等の支払額	80,552	131,030
営業活動によるキャッシュ・フロー	289,622	832,648
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	126,463	126,687
有形固定資産の取得による支出	308,785	300,374
有形固定資産の売却による収入	6,181	680
無形固定資産の取得による支出	7,120	14,661
その他	1,199	50
投資活動によるキャッシュ・フロー	184,460	187,617
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	30,000
長期借入金の返済による支出	190,903	207,150
社債の発行による収入	500,000	-
リース債務の返済による支出	43,673	206,141
自己株式の売却による収入	10,012	-
自己株式の取得による支出	-	24
配当金の支払額	87,300	69,840
財務活動によるキャッシュ・フロー	188,134	513,156
現金及び現金同等物に係る換算差額	50,992	58,221
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	242,304	73,653
現金及び現金同等物の期首残高	4,238,727	4,944,893
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,481,031	5,018,547

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(追加情報)

(信託型従業員持株インセンティブ・プラン)

当社は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当社は、平成23年2月15日開催の取締役会決議により、当社従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上のインセンティブ付与と、株主としての資本参加による従業員の勤労意欲高揚を通じた、当社の恒常的な発展を促すことを目的として、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」(以下、「本プラン」といいます。)を導入しておりましたが、平成27年8月5日をもって信託は終了いたしました。

本プランは、「遠藤製作所従業員持株会」(以下、「本持株会」といいます。)へ当社株式を譲渡する目的で設立する「従業員持株会専用信託口」(以下、「専用信託口」といいます。)が、本プランを導入後5年間にわたり、本持株会が取得すると合理的に見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当によって予め取得し、毎月、当社株式を本持株会に対してその時々々の時価で売り付けます。

当社は、平成23年3月16日付で、自己株式222,200株(123,987千円)を専用信託口へ譲渡しております。当該自己株式については、当社が専用信託口へ株式を譲渡した時点で売却処理を行っております。

なお、当社は、専用信託口が当社株式を取得するための借入に対して保証をしているため、信託終了時点における専用信託口内の借入金残債22,049千円について、当社が弁済しております。

また、専用信託口が所有する株式を含む資産及び負債並びに費用及び収益を、当社の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書に含めて表示しております。

(2) 「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用しておりますが、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託における帳簿価額

前連結会計年度 6,082千円

当該自社の株主資本において自己株式として計上しているか否か

信託が保有する自社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。

期末株式数及び期中平均株式数

期末株式数 前連結会計年度 10,900株

期中平均株式数 前第2四半期連結累計期間 45,325株、当第2四半期連結累計期間 4,588株

の株式数を1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めているか否か

専用信託口が所有する当社株式は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

不正行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
固定資産		
投資その他の資産		
長期未収入金	182,446 千円	209,671 千円
貸倒引当金	182,446	209,671

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
給与手当	299,999千円	225,333千円
賞与引当金繰入額	44,276	55,910
役員退職慰労引当金繰入額	2,240	19,687
減価償却費	30,994	38,185
退職給付費用	9,373	9,625
貸倒引当金繰入額	3,835	234

2 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

場所	用途	種類
新潟県燕市	ゴルフ製品製造用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品、土地
新潟県燕市	遊休資産	建物及び構築物、土地

当社グループは、事業用資産において事業の種類別セグメントを基礎として製品の性質、市場の類似性を勘案してアイアン製造用資産、メタルウッド製造用資産、ステンレス製造用資産及び自動車等鍛造部品製造用資産にグルーピングしております。また、投資不動産及び遊休資産においては個別単位でグルーピングしております。

ゴルフ製品製造用資産については、収益性が悪化し回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(4,734千円)として、特別損失に計上いたしました。

その内訳は、建物及び構築物584千円、工具、器具及び備品4,149千円であります。なお、減損対象とした固定資産の回収可能価額は、正味売却価額を零として算定しております。

遊休資産については、ゴルフ事業で希望退職者の募集により従業員数が減少し、管理部門集約を行ったことに伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(25,068千円)として、特別損失に計上いたしました。また、当社の保有する従業員向け福利厚生施設等の使用状況を勘案し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(156,983千円)として、特別損失に計上いたしました。

その内訳は、土地150,802千円、建物及び構築物31,249千円であります。なお、減損対象とした固定資産の回収可能価額は、不動産鑑定評価額等による正味売却価額により算定しております。

3 事業再編損

前第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

希望退職者を募集したことによる事業再編損の内訳は次のとおりであります。

希望退職による特別退職加算金	241,830 千円
再就職支援費用	45,990
大量退職に係る未認識数理計算上の差異等の一括償却	18,491
大量退職に係る退職給付債務取崩益	20,424
計	248,904

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年9月30日）

希望退職者を募集したことによる事業再編損の内訳は次のとおりであります。

希望退職による特別退職加算金	101,192 千円
再就職支援費用	20,160
大量退職に係る未認識数理計算上の差異等の一括償却	21,997
大量退職に係る退職給付債務取崩益	21,205
計	78,148

4 不正行為に関連して発生したものが、以下のとおり含まれております。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業外費用		
貸倒引当金繰入額	23,304 千円	27,224 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	5,308,580千円	5,781,313千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	827,549	762,765
現金及び現金同等物	4,481,031	5,018,547

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	87,300	10	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

(注) 上記配当金の総額は、専用信託口が所有する当社株式に対する配当金595千円を含めて表示しております。

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	69,840	8	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

（注）上記配当金の総額は、専用信託口が所有する当社株式に対する配当金87千円を含めて表示しております。

（2）基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

・前第2四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

1．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 （注）1	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）2
	ゴルフ事業	ステンレス 事業	鍛造事業	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	2,520,062	737,754	3,355,723	6,613,540	-	6,613,540
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,100	-	-	5,100	5,100	-
計	2,525,162	737,754	3,355,723	6,618,640	5,100	6,613,540
セグメント利益又は損失（ ）	409,410	250,454	397,484	238,529	217,903	20,625

（注）1．セグメント利益又は損失の調整額 217,903千円には、セグメント間取引の消去 5,100千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 212,803千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

・当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ゴルフ事業	ステンレス 事業	鍛造事業	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	2,296,545	887,154	3,677,862	6,861,563	-	6,861,563
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,100	-	-	5,100	5,100	-
計	2,301,645	887,154	3,677,862	6,866,663	5,100	6,861,563
セグメント利益又は損失()	109,321	350,966	396,772	638,416	161,553	476,862

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 161,553千円には、セグメント間取引の消去 5,100千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 156,453千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ゴルフ事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、4,734千円であります。

各セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、182,051千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	48円37銭	5円28銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	422,275	46,058
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	422,275	46,058
普通株式の期中平均株式数(株)	8,730,060	8,730,003

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 専用信託口が所有する当社株式は、1株当たり情報の算定上、控除する自己株式に含めておりません。

(重要な後発事象)

海外子会社の工場合理化について

当社は、ゴルフ事業の収益改善、一層の合理化を図るため、当社の連結子会社ENDO THAI CO.,LTD.のメタルウッドヘッド生産工場の従業員に対し、平成27年10月5日から同10月31日までの期間内で希望退職者を募集しました。なお、退職予定日は平成27年12月25日であります。

この募集に伴う従業員の退職加算金は、平成28年3月期第3四半期決算において、事業再編損(概算額148百万円)として特別損失に計上する予定であります。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月5日

株式会社遠藤製作所

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢野 浩一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神代 勲 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社遠藤製作所の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社遠藤製作所及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成27年11月12日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。